

令和8年度 事業概要



国土交通省 近畿地方整備局
近畿技術事務所
近畿インフラDX推進センター
近畿防災・技術センター



近畿技術事務所の取組

近畿技術事務所はさまざまな技術の改善や災害対応を行い、安全で安心な生活を支える社会基盤の整備に貢献します。

●建設技術支援

調査・分析や基準・マニュアル整備を通じて、社会資本の品質確保と生産性向上を支援します。

●防災技術支援

災害対策機械の運用や調査・技術支援により、迅速な初動対応と復旧支援を支えます。

●新技術活用支援／ICT・インフラDX

新技術の相談・評価・情報提供を行い、現場での活用促進と業務の高度化につなげます。

●人材育成

研修・講習会を通じて技術力の向上を図り、現場を支える人材の育成を進めます。

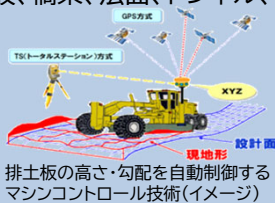
●技術情報管理

技術図書・データ等を収集・管理・提供し、知見の共有と業務の円滑化に活かします。

●技術の研究・開発

社会資本整備・管理の効率化のための様々な技術の研究・開発

- インフラの長寿命化に向けた保全技術の研究・開発（堤防、河川管理用施設、橋梁、法面、トンネル、舗装など）
- 産学官の連携による技術開発
- i-Constructionの推進
- 材料、構造の研究・開発



●調査・分析

土木材料の品質やインフラの健全性診断など、幅広い分野の調査・分析各種マニュアル等の作成

- インフラの健全性に関する調査・診断・記録（堤防、河川管理用施設、路面下空洞の有無など）
- 土木材料に関する調査・試験
- 調査・分析結果を基に各種基準、指針、マニュアルの作成



建設技術支援

●防災・技術センターの整備

他の地方整備局から支援を受ける際の災害対策用機械の支援活動拠点を整備



防災技術支援

●災害対策支援・復旧活動

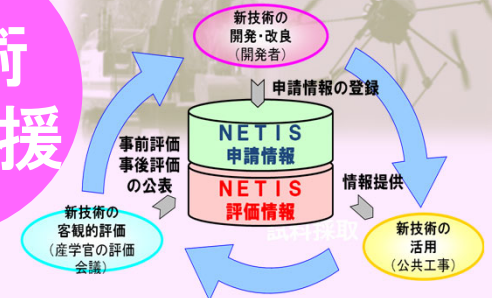
広域的かつ迅速な災害対策支援や大規模災害からの復旧活動を行うための調査・研究

- 大規模災害の復旧、対策などに関する調査・研究
- 災害対策用機械の派遣・維持管理
- 緊急仮設橋の開発



●建設技術の普及のため民間開発技術の情報提供

- 新技術の相談、情報収集・提供
- 新技術の登録・評価、活用促進



人材育成

○技術力向上に資する技術研修・講習会等の実施



技術情報管理

○技術図書、地質データ、工事完結図書などの収集、管理、提供



建設技術支援（道路関係）

舗装点検調査

舗装の長寿命化・ライフサイクルコストの削減など効率的な修繕の実施にあたり、近畿地方整備局が管理している直轄国道については、「舗装点検要領」に基づいて近畿技術事務所が一括して舗装点検を実施しています。

舗装点検は、点検支援技術（カタログ技術）を活用して実施しており、機器等の特性を生かした舗装点検要領における変状の記録作業を実施することで、記録作業の省力化と高度化を図っています。

また、点検結果については、全国道路施設点検データベースに登録し、点検データの利用促進を図るとともに、同じく登録された修繕区間との照合整理を行い、効率的な道路維持管理を推進しています。

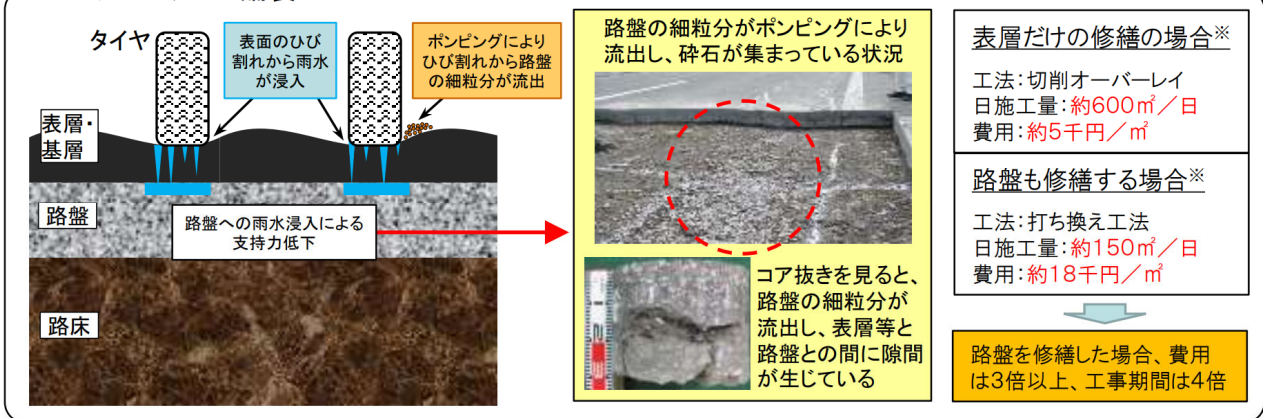
区分		状態
I	健全	損傷レベル小:管理基準に照らし、劣化の程度が小さく、舗装表面が健全な状態である
II	表層機能保持段階	損傷レベル中:管理基準に照らし、劣化の程度が中程度である
III	修繕段階	損傷レベル大:管理基準に照らし、それを超過している又は早期の超過が予測される状態
	(III-1:表層等修繕)	表層の供用年数が使用目標年数を超える場合(路盤以下の層が健全であると想定される場合)
	(III-2:路盤打換等)	表層の供用年数が使用目標年数未満である場合(路盤以下の層が損傷していると想定される場合)

※管理基準の参考値を提示

- ・分類Aの道路:ひび割れ率(15%~20%)、わだち掘れ量(20mm~25mm)、IRI(3.5mm)
- ・分類Bの道路:ひび割れ率(20%~40%)、わだち掘れ量(20mm~40mm)、IRI(8mm)

分類Aの道路:高速走行など求められるサービス水準が高い道路(高速道路や自動車専用道路)
 分類Bの道路:直轄国道
 使用目標年数:近畿では14年としています

<アスファルト舗装>



性能に関する調査(長期保証)

平成23年度より道路アスファルト舗装の長寿命化による維持管理の効率化とコスト削減を目的として、性能指標を設定し、長期保証型舗装工事を導入しています。

舗装長期保証制度は、施工後5年間の性能(わだち掘れ量・ひび割れ率)を規定し、満たない場合に施工者へ修繕等を求める制度です。丁寧な施工を促す「性能規定」に基づく発注方式です。

近畿技術事務所では2年目の中間計測および5年目の保証期間満了時における計測を実施するとともに、舗装の劣化状況を考慮した適切な性能指標値の設定について検討を実施しています。

指標	指標値	試験方法	試験頻度
引き渡し翌日から5年後における路面のわだち掘れ量	各測点の最大値が14mm以下	舗装調査・試験法便覧の横断プロフィールメーター 試験方法又は路面性状測定車による測定方法	各車線 20m 間隔で設定
引き渡し翌日から5年後における路面のひび割れ率	各測点の最大値が9%以下	舗装調査・試験法便覧のスケッチ法又は路面性状測定車による測定方法	各車線 20m 間隔で設定

トンネル工事岩判定支援

トンネル岩判定のバラツキをなくし、均一性の高い岩判定を実施するため、近畿地方整備局発注のトンネル工事において、岩判定支援技術者が第三者として意見を述べることにより、岩判定を支援するとともに、今後の岩判定における生産性向上のため、支援技術の検討を実施します。

また、施工中に不測の事態が生じた場合等にトンネルアドバイザー(学識経験者等)から指導助言を受ける体制を確保するとともに、職員を対象としたトンネル技術力向上の勉強会開催や、トンネル内からの遠隔臨場による岩判定を的確に行うために、令和8年2月に「建設現場における遠隔臨場に関する実施要領[トンネル地山等級判定編](案)」を策定いたしました。



岩判定支援技術者の助言を参考とした岩判定



トンネルアドバイザー会議の状況

センシングデータを活用した道路管理の高度化検討

近畿地方整備局では、令和7年度までにモバイルマッピングシステム(以下、MMS)による近畿管内の直轄道路の3次元点群データを全て取得しました。

MMSは、高精度な3次元地形計測が可能であり、同時に映像情報も取得出来るため、これらから得られたデータを組み合わせることで、様々な場面への活用が可能です。

これらセンシングデータをベースとしたデジタル技術を道路の日常管理において活用を図るため、近畿地方整備局管内の直轄道路管理区間の全データの中から、利用にあたって必要な箇所のデータを抽出するセンシングデータの閲覧システムの構築を行います。

○索引地図や目標物からの地図検索



○矩形指定による情報の検索



○データ一覧の表示とダウンロード



○簡易ツールによる点群データの閲覧



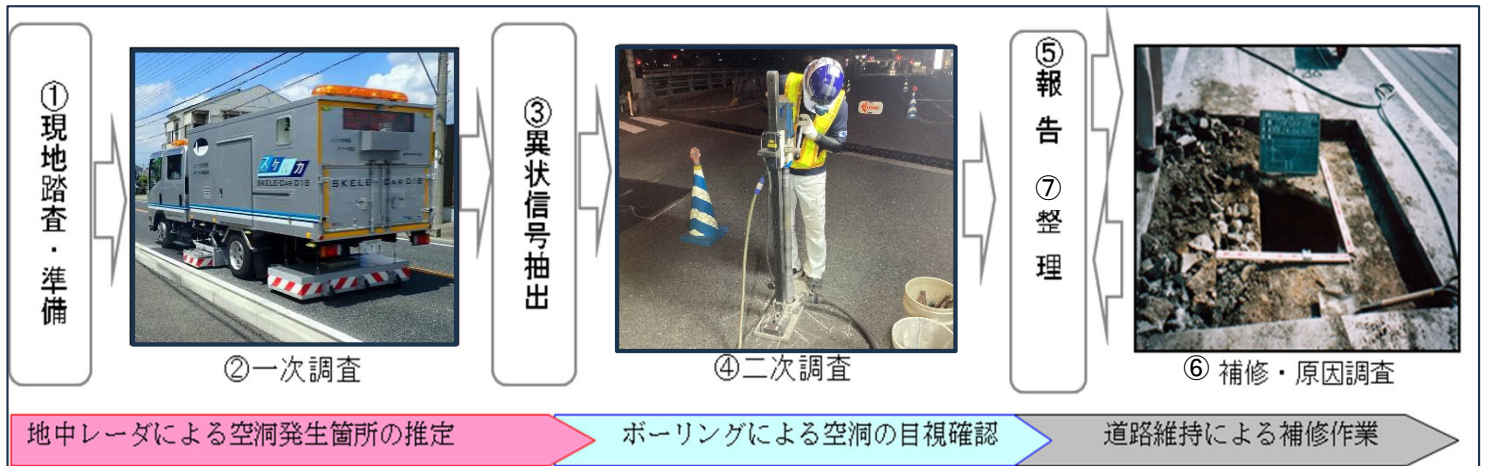
センシングデータ閲覧システム(試行版)

路面下空洞調査

近畿技術事務所は、平成2年度の道路調査車(地中探査車)開発、フィールドテストを経て、外観から推定困難な路面下の空洞発生状況を非破壊調査する技術を実用化しています。

この調査技術を用いて、平成6年度より近畿地方整備局管内の広域的な路面下空洞調査を計画的継続的に実施してきました。令和7年3月には「路面下空洞調査要領」が定められたため、本要領に基づき路面下空洞調査を実施しています。(調査対象測線総延長約5,300km)

また、突発的な異状が発見された場合の緊急調査も実施しています。



建設技術支援 (河川関係)

河道内樹木の再繁茂抑制技術の検証

河道内樹木は、洪水流下の阻害及び河川管理施設の機能維持に影響を及ぼすことから、伐採後の再繁茂を抑制することが今後の管理面、コスト面で重要となっています。

近畿技術事務所では、河道内樹木の効率的な再繁茂抑制技術の確立に向けて、竹を対象とした薬剤注入・天地返し、樹木を対象とした踏み倒しによる試験施工を行い、再繁茂抑制効果の検証を行っています。



【竹・薬剤注入】



【樹木・踏み倒し】

堤防植生の管理技術の検証

河川堤防では、管理コスト縮減に伴う除草回数の減少により、草丈が高く、根張りが乏しい植生の繁茂が著しくなり、点検等の支障や侵食に対する安全性が低下し、除草コストも増加しています。

近畿技術事務所では、「低草丈草種への植生転換」、「薬剤を用いた芝養生工・堤防植生管理手法」及び「土壌改善対策」により、除草コスト縮減を図るとともに、堤防植生に求められる「耐侵食性」「視認性」等の機能保持を目的とした堤防植生管理技術の検証を行っています。



高茎草本が繁茂した堤防法面
【当初】



チガヤと芝が主体となった堤防法面
【5年後】

薬剤を用いた
堤防植生管理
手法を実施

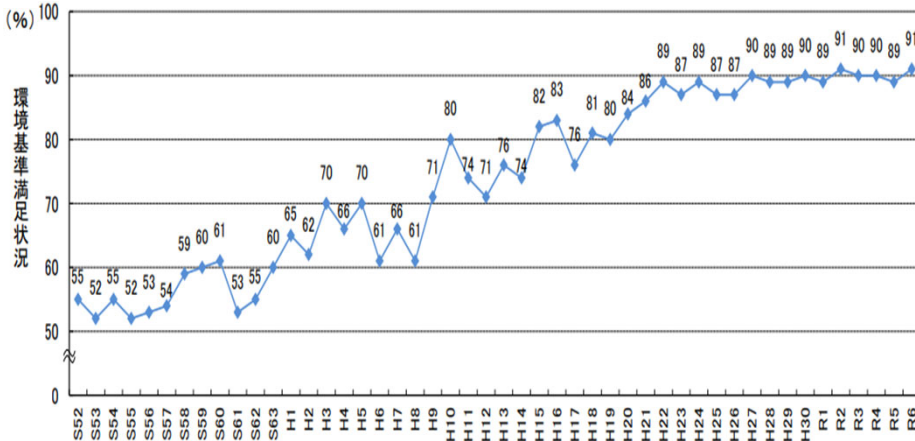
水質調査及び水質データ管理

河川法に基づき「河川の適正な利用」「流水の正常な機能の維持」「河川環境の整備と保全」を図るため、水質調査を適切に実施しています。

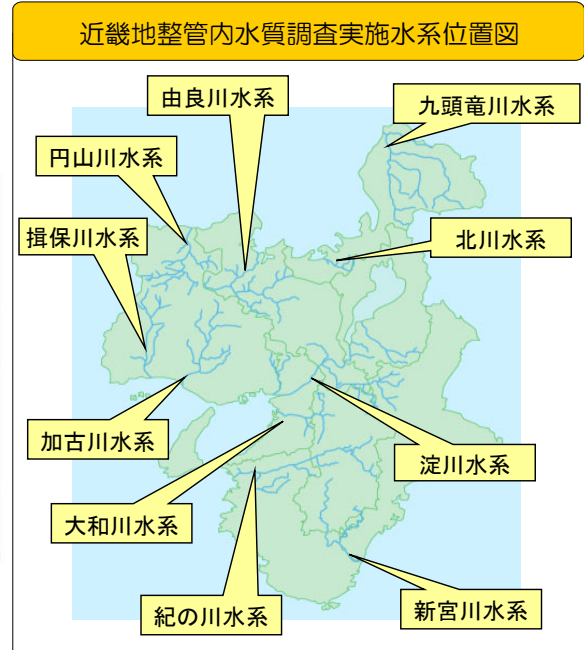
- 定期調査 ⇒ 河川及び地下水の水質、河川底質、ダイオキシン類【水質・底質】
- 緊急調査 ⇒ 水質事故時等

○生活環境の保全に関する環境基準の満足状況

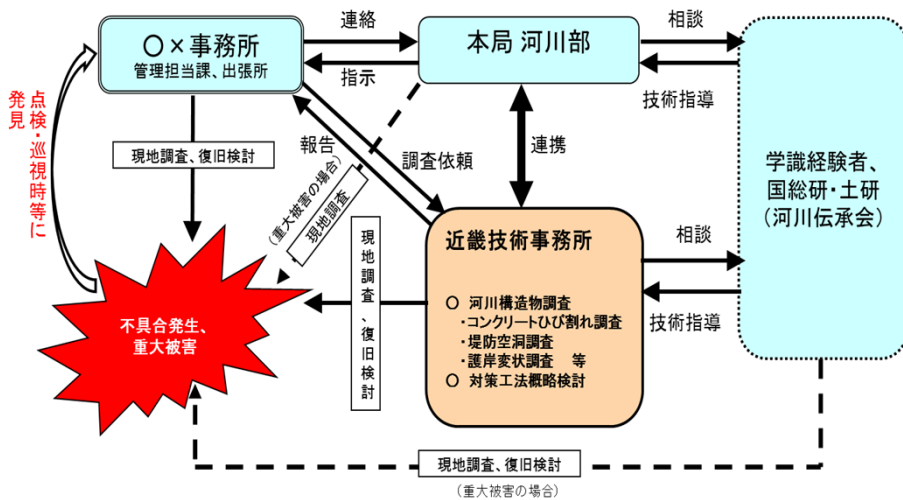
環境基準の類型が指定されている115調査地点（河川全102地点、湖沼13地点）中、105地点（河川全102地点、湖沼3地点）で環境基準を満足しました。



2024近畿管内一級河川の水質現況の公表(R7. 7) BODの達成状況の経年変化



河川構造物の損傷に対する技術支援体制



- コンクリート構造物のひび割れや堤防の陥没等の不具合が発生した場合、事務所からの要請に基づき現地調査を実施。
- 不具合に対する技術的裏付けのため、本局と連携して「日常点検における不具合」に対する原因究明、対策工法の技術支援を実施。
- 必要に応じて、学識経験者等へ技術相談を実施。
- 災害発生時の緊急的対応についても検討。

（不具合、重大被害発生時の技術支援）

陥没調査

・地中レーダ探査

堤防法面で陥没（排水管の破損による影響）が確認された場合、その他にも同様の陥没につながる空洞が存在していないか地中レーダー探査による調査を実施します。



堤防のり面の陥没状況



堤防天端の沈下状況



地中レーダ探査状況

建設技術支援（土木機械設備）

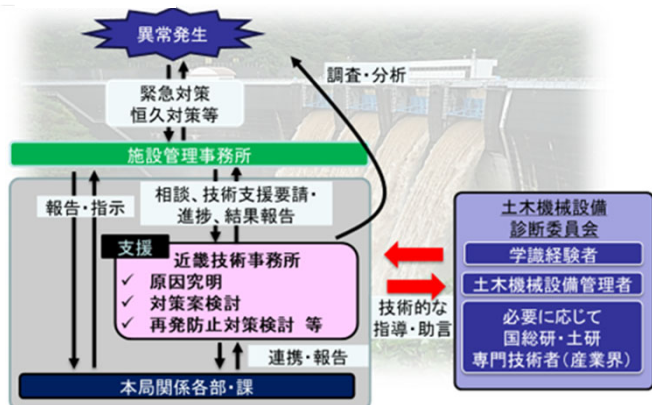
土木機械設備診断

土木機械設備は、大雨、洪水、高潮、津波などの自然災害発生時に地域住民の生命や財産を守る重要な社会インフラです。一方で突発的な故障が発生した場合には、原因究明や復旧対策の検討に高度な技術力と専門的な判断が求められます。

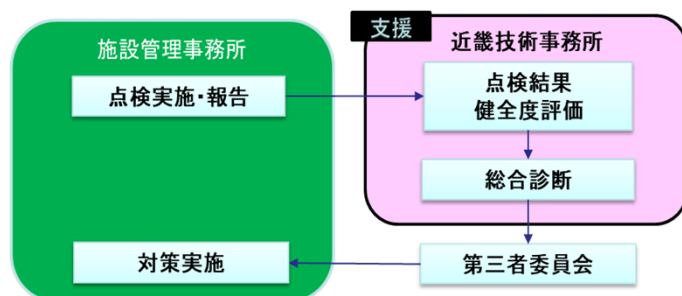
近畿技術事務所では、故障発生時にも適切な対応が行えるよう、学識経験者等の指導・助言を得る土木機械設備診断委員会や部会を開催し、原因の究明や復旧対策の検討を支援します。

また、点検結果や過去の故障履歴等をもとに、予防保全の考え方に基づいた総合診断の実施を支援し、第三者による客観的な判断を通じて、維持管理の最適化を図ります。

■土木機械設備の故障対応



■土木機械設備の総合診断



建設技術支援（土木材料）

土木材料に関する調査・試験（主な項目）

コンクリートに関するもの

・単位水量測定試験



コンクリート構造物の品質に影響を及ぼす水分量について、レディーミクストコンクリートの品質確保を図る観点から、単位水量の測定を実施しています。

「レディーミクストコンクリート単位水量測定要領(案)」に基づき受注者が測定を実施するものですが、近畿技術事務所においても抜き打ちによる単位水量の測定を実施し、測定手法、測定結果の検証を行っています。

土質に関するもの

・堤防開削時の土質調査



河川堤防(土堤)は、過去から段階的に構築されてきたものが多く、土質が均一でないことが一般的です。

そのため、堤防開削を行う箇所において土質調査を実施することにより、付近の堤防における質的検討やその対策検討の資料としてデータを蓄積しています。

建設技術支援（ICT施工）

ICT施工推進のための検討

ICT活用工事の効果検証

令和7年度より直轄工事の土工においてICT施工が原則化されましたが、近畿技術事務所では引き続き、ICT施工を更に発展させ、ICT施工Stage IIへ深化させるための検討や検証に取り組みます。これらの取組を通じてその効果を明らかにし、ICT施工Stage II普及に向けた足掛かりとします。

ICT活用工事における活用事例・技術の紹介

検証結果により効果が確認できた事例を基に、活用方法や技術導入に向けた情報提供を行います。ICT活用工事への理解を深め、普及を図ることにより、現場の省人化や省力化に資することを目指します。



ICT施工Stage II 活用工事（イメージ）

ICT工種と監督・検査のデータ連携の組合せ



建設技術支援（遠隔施工）

遠隔施工技術の推進に向けた検討

○一般工事への遠隔施工技術の導入検討

遠隔施工技術は、通信技術を用いてオペレーターが施工現場から離れた場所から、重機を操作する技術であり、災害復旧工事に限らず、一般工事への活用が期待されています。

近畿技術事務所では、遠隔施工技術の一般工事への円滑な導入・適用に向けて、検討や検証を進めています。



遠隔施工による法面整形・掘削



バックホウの遠隔施工

コンクリート構造物の規格の標準化による生産性向上

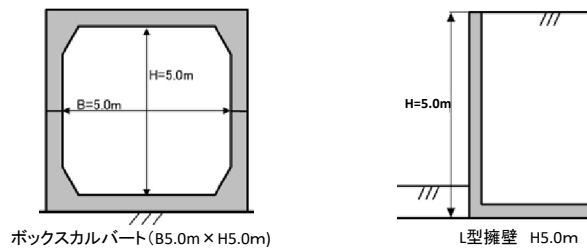
近畿地方整備局では、i-Constructionにおけるトップランナー施策の一つとして、コンクリート工の規格の標準化による全体最適の導入により、建設現場1人当たりの生産性向上による働き方改革促進の取り組みを推進しています。その一つとして、これまで、近畿地整管内においてプレキャスト製コンクリート構造物の現場活用を推進するため、価格以外の要素を考慮したVFM評価手法取り入れた「コンクリート構造物選定マニュアル」を作成・公表しました。更に、令和8年度より設計及び現場施工における生産性向上を目的とした、コンクリート構造物規格の標準化を検討します。標準図集(仮称)を作成・公表することで、プレキャスト製品メーカーの新規規格品の開発を促進し、更なる活用を促すものです。

令和3年度
～
令和7年度

コンクリート構造物選定マニュアル(試行案) (ボックスカルバート・擁壁・開水路編)作成

このマニュアルにより、

- ・ボックスカルバート: 車の走行が可能となる内空幅5m内空高さ5mでもプレキャストを採用
- ・L型擁壁: 標準品の最大寸法である壁高5mまでプレキャストを採用



令和8年度～

コンクリート構造物の規格の標準化

- ・中型・大型製品における標準規格の選定
- ・標準規格の設計及び図面作成

建設技術支援 (民間・学識経験者・官との連携による技術開発)

新都市社会技術融合創造研究会(産・学・官連携)

社会資本の整備、維持、管理に関わる産・学・官の連携・協力による新しい技術の研究、普及等に関する事業を行うことにより、都市再生と地域の連携による経済活力の回復に貢献し、国民生活の質の向上、安全で安心できる暮らしの確保、環境の保全・創造に寄与することを目的に、新都市社会技術融合創造研究会として近畿技術事務所が事務局となり取り組んでいます。

本研究会では、有識者、国交省関係者、民間団体等からなる「プロジェクト選定・評価委員会」を設置して、プロジェクトの募集、プロジェクトチームの設置、評価やその支援措置等を行うほか、テクニカルアドバイザーを置いて、プロジェクトチームの活動に必要な技術的支援を行っています。

また、新しい道路技術の普及や広報のためのセミナーや研究成果報告会を開催しています。



プロジェクトのセミナーの様子



新都市社会技術融合創造研究会 委員会の様子

新都市社会技術融合創造研究会 ホームページ

<https://www.kkr.mlit.go.jp/road/shintoshikenkyukai/index.html>

防災技術支援

防災センター機能の充実(近畿防災・技術センター)

近畿技術事務所では、大規模災害発生時に迅速かつ円滑な防災体制を構築するため、「近畿防災・技術センター」を近畿地方整備局災害対策本部(本局)の代替拠点として位置づけ、今後は本格的に運用していきます。

大規模災害発生時には、防災センターとして、支援要請に基づく災害対策用機械の派遣、他の地方整備局から派遣されるTEC-FORCE隊員や災害対策用機械の一時集結地としての役割を担い、近畿地方整備局災害対策本部と連携した災害復旧活動を支援します。

今後は、実践的な訓練計画を策定し、定期的に訓練を実施して改善を重ねることで、さらなる機能向上を図ります。



災害対策用機械の活動機能の充実・強化に関する検討

近畿地方整備局では、台風や地震などによる災害から地域住民の生命や財産を守り、社会経済活動の維持を図るため、排水ポンプ車や照明車などの災害対策用機械を保有し、河川氾濫時の緊急排水や災害復旧現場での夜間照明などの活動を行っています。一方で、災害対策用機械の操作を担う建設業界では、人材不足や高齢化が進行し、災害発生時の迅速な対応や継続的な体制の維持が課題となっています。

このため、人材不足や高齢化への対応を目的として、災害対策用機械の省人化・効率化に資する装備や装置の検討を行います。また、人材育成の観点から訓練などの充実を図るとともに、災害の特性に応じて必要となる携行品の充実に取り組みます。

省人化・効率化

災害現場における作業員の負担を軽減するとともに、限られた人員でも迅速かつ安全に対応できるよう、災害対策用機械の装備品や各種装置類などを検討

人材育成

災害発生時を想定し、初動対応から現地撤収に至るまでの各段階において必要となる行動を的確に行えるよう、実際の災害現場の状況を踏まえた訓練の立案

携行品の充実

迅速な出動や災害現場での円滑な対応、効率化を実現するため、台風や地震などの各災害の特性に応じて必要となる災害対策用機械の携行品を充実



災害復旧支援活動

災害時には近畿技術事務所が保有している災害対策用機械、トイレカー、ドローン(UAV)、橋梁点検車を迅速に派遣し、災害復旧支援を実施しています。

また、自治体からの支援要請時には、機械の操作が可能なように現地での操作説明を実施しています。

【保有状況(令和8年3月31日現在)】

保有機械名	近畿技術事務所	近畿地方整備局
照明車	4台	28台
排水ポンプ車	5台	43台
対策本部車	1台	17台
衛星通信車	2台	7台
トイレカー	1台	1台
応急組立橋	2橋	3橋
土のう造成機	1台	8台
分解対応型BH	1台	1台
簡易遠隔操縦装置	1台	1台
橋梁点検車	3台	3台
計	21台	111台



照明車



排水ポンプ車



対策本部車



土のう造成機



分解対応型バックホウ
(無人化施工)



橋梁点検車



衛星通信車



トイレカー

【派遣事例】



分解対応型バックホウ
(無人化施工状況)



照明車



排水ポンプ車



対策本部車



応急組立橋
(架設状況)

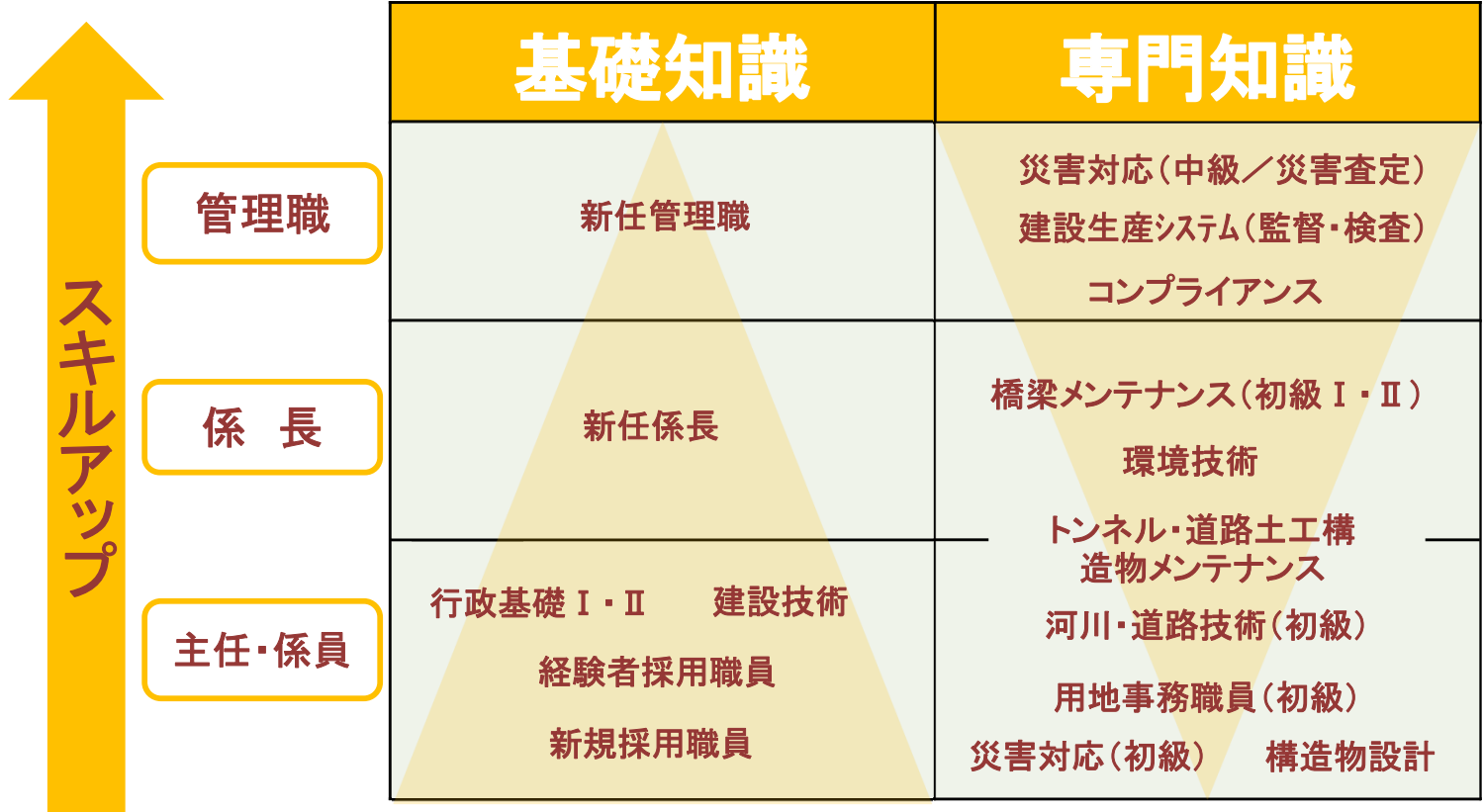


ドローン(UAV)による被災状況調査

人材育成

研修

近畿地方整備局では、仕事や経歴に応じて基礎知識や専門知識を習得するための様々な研修を実施しており、全ての職員がスキルアップを図っていくための体制を整えています。



講習

土木材料等の品質確保に関するもの



コンクリート試験講習



アスファルト試験講習



土質試験講習



水質試験講習

災害支援関係

災害協定者操作訓練



災害協定者説明会



災害協定者操作訓練
(排水ポンプ車操作訓練)



災害協定者操作訓練
(分解対応型BH遠隔操縦訓練)

進出拠点関係訓練



災害対策用機械進出拠点
設置・運営訓練

研修用施設の活用

国土交通省職員だけでなく、自治体からの研修依頼にも応じ、各種研修施設を利用した研修・説明会を実施しています。

土木構造物検査技術研修施設

土木構造物検査技術研修施設

・コンクリート構造物の施工不良検査技術の取得や鋼構造物の溶接不良、劣化構造物の展示を通して施工監督技能の習得を図る。

※平成16年度の施設の開設以来、国土交通省職員をはじめ、自治体職員など多くの団体に利用されています。



溶接不良モデルの見学



ボックスカルバートの講習



電磁波レーダー法の実習



電磁誘導法の実習



シュミットハンマーの実習

交通バリアフリー比較体験コース

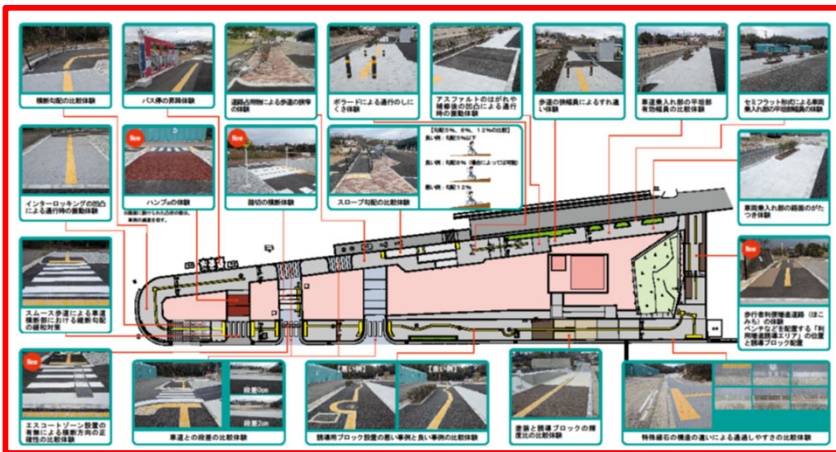
交通バリアフリー比較体験コース

・設計担当者、施工担当者、ユーザーそれぞれのバリアフリー化への理解と関心を高める。

※白杖体験（目の不自由な方の体験）、車いす体験（足の不自由な方の体験）が可能。

施設の開設以来、国土交通省職員をはじめ、府県、市町村、学生、一般など多くの方に利用されています。

交通バリアフリー比較体験コース



交通バリアフリー比較体験コース



白杖体験

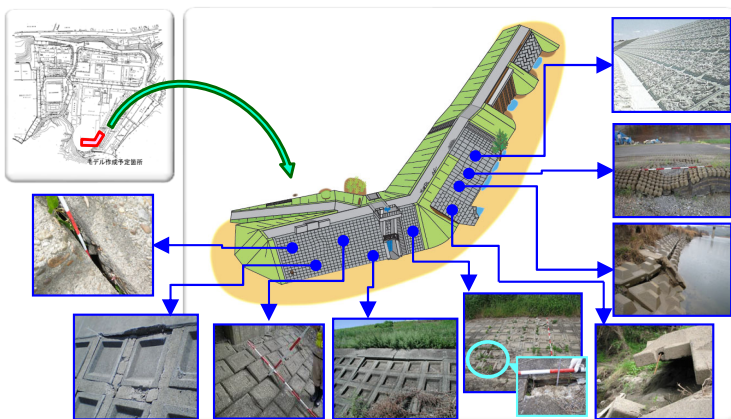
車いす体験

研修用“不具合”堤防

・研修用“不具合”堤防

・経験の浅い職員にも、堤防や護岸に存在する変状について、現場で「危ない」「おかしい」を見極める力を養成する。

※施設の開設以来、国土交通省職員をはじめ、府県、市町村、一般、など多くの団体に利用されています。



函渠部

張りブロック箇所



露筋・漏水の確認



沈下・陥没の確認

近畿インフラDX推進センター

近畿技術事務所では、インフラ分野のデジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進に必要不可欠な人材の育成と確保をめざし、官民の人材育成、DXの体験、最新技術の情報発信を行う施設として令和3年4月1日に近畿インフラDX推進センターを開設し、人材育成支援を実施しております。

近畿インフラDX推進センターで行っている人材育成支援

- 育成・・・国・地方公共団体の職員、民間の建設技術者向けに研修を実施
- 体験・・・学生、一般、外国人研修生向けのインフラDXの体験
- 情報発信・・・ホームページ、SNS等でインフラDXについて情報発信

育成

近畿インフラDX推進センターではDXの推進にむけて4つの研修を行っています。



BIM/CIM研修



ICT活用研修



無人化施工研修



BIM/CIM施工研修

BIM/CIM活用のため3D-CADソフトを用いた3次元設計、ICT施工を行うためのデータ作成、ICTでの施工管理及びICT建機の操作研修、災害時で活躍する遠隔操作(無人化)建機の操作研修など

体験

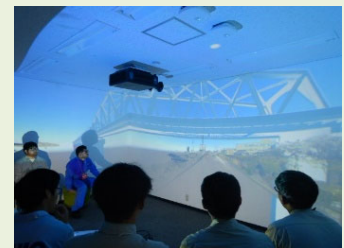
近畿インフラDX推進センターでは施設の見学を受け付けています。一般の方も見学可能です。



遠隔操作の体験



3次元データ・CIMモデル
操作の体験



VR動画によるデモン
ストレーションの体験

BIM/CIMモデルの閲覧・操作体験、VRルームでのBIM/CIMモデル体験、点群データ体験及び遠隔操作バックホウの操作体験 など

情報発信

近畿技術事務所HPやX(旧:Twitter)、Instagramで近畿インフラDX推進センターの情報を発信しています。また、YouTubeによる動画配信(企業が取り組む新技術情報)や近畿インフラDX通信を発行しています。



DX推進センター
Webサイト



公式X(旧:Twitter)・公式Instagram
公式YouTubeチャンネル



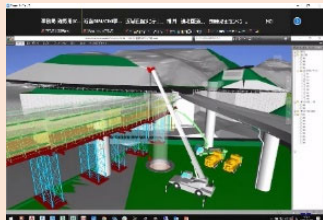
国・地方公共団体のDX
取り組み事例を紹介

育成：近畿インフラDX推進センターにおける研修の紹介

近畿インフラDX推進センターでは、国・地方公共団体職員、民間の建設技術者向けにBIM/CIM研修、ICT活用研修、無人化施工研修及びBIM/CIM施工研修の4つの研修を実施しています。

BIM/CIM研修 (国・地方公共団体職員向け)

インフラのデジタル化を進め、BIM/CIM活用への転換を実現するために、BIM/CIMモデル(3D-CAD)に関する基本操作やBIM/CIMモデルを用いた業務や工事の知識を身に付ける研修を行います。



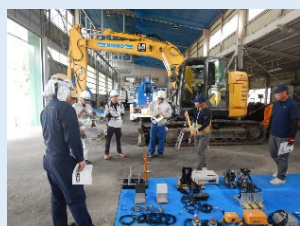
ICT活用研修 (国・地方公共団体職員、民間の建設技術者向け)

ICT活用の知識とともに、ICT活用工事の起工測量から3次元データの納品および監督・検査までの各段階の確認方法または実施方法について、プロセスを習得するための研修を行います。



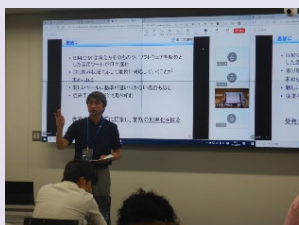
無人化施工研修 (民間の建設技術者向け)

災害時に復旧作業を安全に施工するための無人化施工技術の知識および基本操作を習得する研修です。実際に建設機械を有視界とモニターで遠隔操作を行います。



BIM/CIM施工研修 (国・地方公共団体職員、民間の建設技術者向け)

BIM/CIMモデルで作成された3次元設計データをICT施工で活用するために、設計データの受け渡し、成果品データの確認および施工データの作成技術の習得を目的とした研修です。



体験：近畿インフラDX推進センター施設案内

令和3年4月から学生、一般、外国人研修生向けにインフラDX体験(施設見学)を実施しています。令和8年度も引き続き、来場者のアンケート等をもとに更なる内容の充実に取り組みます。

- ・令和7年度は、66組811名の方に来場いただきました。また、11/14(金)・15(土)に当事務所において開催したふれあい土木展2025では、809名の方にセンター内の各ブースでDXを体験いただきました。
- ・建設技術展2025では、出張DXセンターとして実際の見学コンテンツを多くの方々にご体験いただきました。
- ・令和8年度においても以下のHPから見学受付を受け付けています。



<https://www-1.kkr.mlit.go.jp/kingi/infradx-center/application/index.html>

DXセンター-見学受付HP

令和7年度 延べ来場者数 66組 811名
ふれあい土木展来場者数 (DXセンター入館者数) 809名 計 **1620名**

見学者からの感想等

- 将来的に建設業界を支える技術を見れて、今後実際の現場で増えてくることが楽しみに思いました。
- DXをより理解できるよい機会になりました。
- 普段、BIM/CIMについて関わるのが少なかったため、最新の技術を知ることができて良かった。
- ただ説明を聞くだけでなく、体験できるものも多く楽しく学べました。
- とてもわかりやすく、建設業界のイメージアップにつながると感じました。
- 本日は最初からわくわくしており、話から体験など全て内容が頭に入りやすく、非常に楽しくいい体験になった。また、今後役に立つ知識にもなったと思う。



情報発信：近畿インフラDX通信、動画公募、SNS配信

近畿インフラDX推進センターでは隔月毎に近畿インフラDX通信を発行しており、各事務所や自治体のDXに対する取組を近畿技術事務所のHP、X(旧:Twitter)、Instagramにて紹介しています。

また、新技術情報提供システム(NETIS)に登録されている新技術と、官民研究開発投資拡大プログラム(PRISM)に選定された技術を対象に動画を公募し、YouTubeに公開しております。



DX通信



動画公募



YouTube



公式YouTube

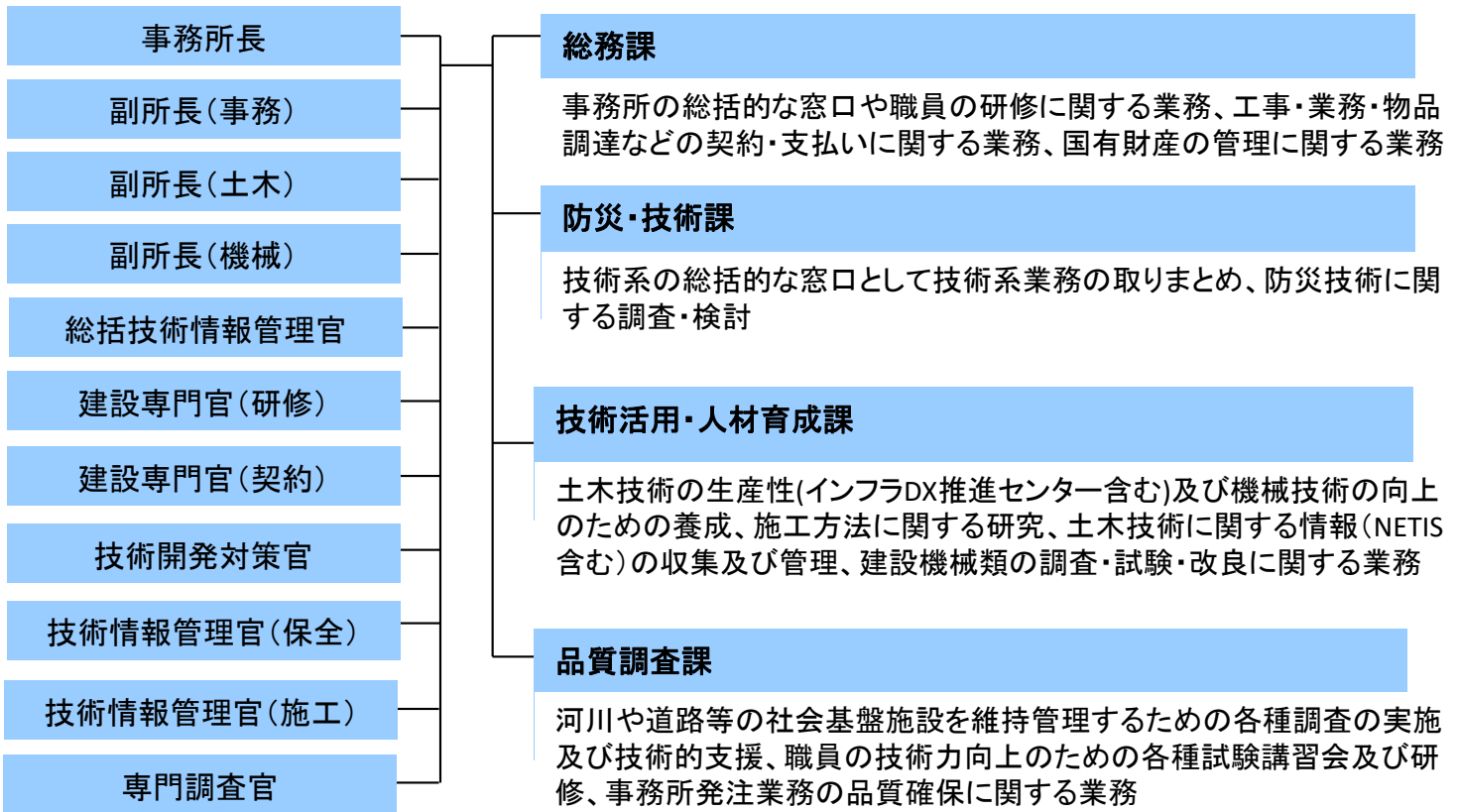
近畿技術事務所・近畿インフラDX推進センター

近畿技術事務所の概要

○事務所の変遷

昭和23年 7月	建設省発足
昭和24年 7月	大阪工作事務所として発足
昭和25年 8月	大阪機械整備事務所と改称
昭和39年 7月	大阪機械事務所と改称
昭和41年 4月	大阪技術事務所と改称
昭和42年 4月	現在地に庁舎移転
昭和45年10月	近畿技術事務所と改称
平成13年 1月	省庁再編により国土交通省が誕生
令和 3年 4月	近畿インフラDX推進センター開設
令和 6年 4月	近畿防災・技術センター開設

○組織体制



国土交通省 近畿地方整備局 近畿技術事務所

〒573-0166 大阪府枚方市山田池北町11-1

TEL 072-856-1941 (代表)

HP <https://www.kkr.mlit.go.jp/kingi/>

ホームページ



X(旧:Twitter)



Instagram

